



BREAK BLUE  
LUST BULLET: II  
サマヨエルアヨイダンガン

PRESENTED BY STUDIO TIAMAT

"BLAZBLUE" RESPECT BOOK  
FOR ADULT ONLY

TANABE













な...なあ...  
コレ...もう少しだけ  
くれない...か...?

くれって...  
お前えもう足腰  
立たねえじゃあ  
ねえかよ...?

頼む...  
疼きが...全然  
収まらなくて...

はっ  
はっ  
はっ

わ...った  
わ...った...  
すぐにくれて  
やるよ...

くち

はっ

はっ

うあっ

おっ

んおっ

おらっ

おらっ

はっ  
はっ

はっ

はっ

はっ







そう…己の内に  
底知れぬ淫らな  
欲求を自覚して  
しまった私は…

連日  
この男の元に通い  
お互いの意識が  
遠のくまで快楽を  
貪り合っていた…





日が高い…  
ひよっとして  
もう昼か…

どうも最近  
起床時間を  
疎かにしてる  
な…



ん…

ちゅん



もっとも…  
このところ  
いつ寝てるのか  
判らん日が続いてた  
しなあ…

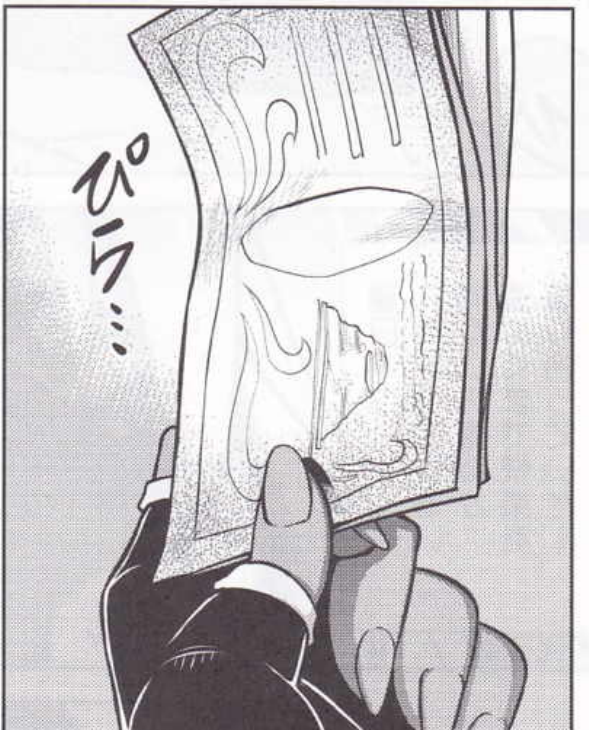
こんなことでは  
いつまで経っても私は  
半人前—ん？



……

くしゃ…

さすがにいつまでも  
このままというのは  
不誠実か…



おひさ…



い...いやや...  
これはそのその...  
ちが...ちがちが  
ちががが...!?

んな慌てなくなつて  
盗りゃあしねーよ

メシの支度すつから  
顔でも洗つてきな



おいおい  
せっかく貯めた金  
大事に仕舞つてなくて  
良いのかよ?

とぎゅ



怒らない  
のか?



ひよっとして  
気付いてたのか...?

その...私が  
バイトで上手く  
いってる事...

ん...  
まあな?



...ん?  
「貯まった」?

「貰えた  
「稼いだ  
なく...」



怒る  
なん

いや…  
もう払える金を  
もっていたのに連日  
食事をたかり続けてた  
から…

ああ…  
別にそんなの  
気にしちゃいねーよ

前にも言ったが俺あ  
最初からこの程度の事で  
見返りを求める気は  
ねーんだ

それに金の代わりに  
それなりに良い思い  
させてもらったしよ？

うぐ…っ

とにかくお前は  
お前なりにスジは  
通してたと思うぜ？

金だって  
お前なりの事情が  
あって出し渋ってた  
んだろうしよ…

……  
そんなんじゃ  
ないさ…

私が金の事を  
黙ってたのは…

単に今の関係を  
終わらせたく  
なかったからだ…

無防備  
重ねる  
すっか  
しまっ

金が出来ればもう  
お前に食事の  
世話になる必要も  
なくなる…

そうなれば  
もうあの快楽を  
味わえる口実も  
なくなるだろう…

そう思った途端  
言いしれない人恋しさを  
覚えてしまった…

ふふ…  
こんな浅ましい  
傭兵が他に  
いるか？

……

所詮私は半人前にも  
及ばない女なんだ…

おい…  
あんま自分を  
卑下す…



すん…



!

フッ



フッ…

グー  
わっ

い…いきなり  
なんだっ  
貴様……っ

悪い  
やりたくなった

はあ!?

メシの前に  
少し運動すんのも  
悪かねえだろ?

香

そ…そんな  
事言っても…

ふわあ…っ!?

わっ

おい…っ  
いい加減に  
しないと…

んうっ!?

んうっ







ハ…  
だらしねえ  
顔してんなあ？

そんな  
乳首に  
良かつ  
たかの？

んっ  
っ



ふえ…っ!!  
あ…や…

え…?

おっと…  
緩んだマ○コから  
色々漏れてやがる…

愛液…小便…  
これ昨夜射精した  
ザーメンか？

うあ…  
み…  
見るなあ…っ

れろっ  
れろっ



膣内のヤツ  
掻き出した方  
良いか？

え…ちよ…  
待…っ

ふあ

ガッ  
ッ





あーっ

あーっ

ああ…また…  
これだ…あ…

コイツのを…  
膣内に挿入れる度に  
頭が…真っ白になる…



クリ

あーっ

身体が蕩けて  
制御が利かなくな  
って…



れる

れる



れる

「餡」のヤリシ「  
理性」が  
しゃぶり取られて  
いくぅ…♡

じゅわん

はあーっ

あーっ

じゅわん



正直……  
こんなの毎度  
見せられちゃあ……

お前が一人で  
サカってる事にどんな  
負い目を持ってっか  
知らねえがよ……

この際お互い  
やりたいように  
やらねえか……？

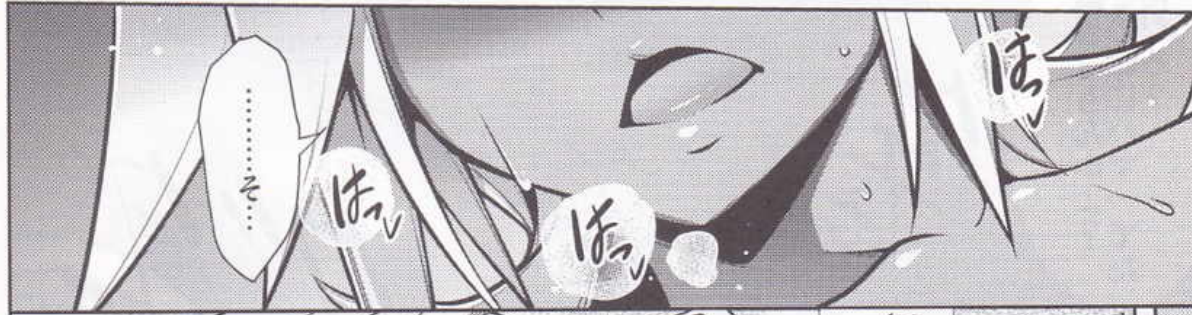
俺としちゃあ  
その方がこの先  
気兼ねなく世話に  
なれるしよ……？

こっちも  
溜まりに溜まる  
一方なんだよな……

それなら……  
存分に受け止めて  
貰う……からな……？

この身体に  
巣くう……衝動……

良いぜ……







私の身体…  
すっかりコイツに  
骨抜きにされてる…♡

何度も何度も…  
抱かれてるうちに…  
覚えてしまった…♡

膣内に叩き込まれる  
コイツの子○ポの  
遅しさや…

注がれる  
精液の熱さ…♡



もっと…  
欲しい…♡

もっと…  
吸めたい…♡

もっと…  
味わいたい…♡

おら…っ  
そろそろ  
射精すぜ…っ

おく  
膣奥の方まで  
たっぷりなあっ!!

もう…  
抑えられない…



あひー

「ロイツ無いのでは  
いられない——」  
♡

[Redacted text]



そーいやよ…

結局その金は  
何に使うんだ？

やっぱ当面の  
路銀か？

ん？

そーだな…  
思えば—

これまで  
具体的な金の  
使い道を考えた事は  
なかったな…

この金は  
二人の**結婚資金**に  
しようと思う

そーかそーか  
結婚資金か  
そりゃあ良い  
…

え…  
けっこん…!!

あれから色々  
考えたんだ

この先もお互いを  
求め合うなら  
この関係をより深く  
追求していこうとな…

と言う訳で  
ふつつか者だが  
宜しく頼む…

ダーリン♡

お



BREAK BLUE  
LUST BULLET:II  
サマヨエルアライダンガン

発行元：STUDIO TIAMAT

発行日：2016/12/31

印刷所：共信印刷

サークル連絡先：TANABE

E-mail:tanabe@studiotiamat.sakura.ne.jp

URL:http://studio-tiamat.sblo.jp/

※注 無断転載・複製禁止